



認知症疾患医療センターについて

精神保健福祉士 宮本 秀和

当院は大分県から平成26年9月1日付けで大分県認知症疾患医療センターの認可を受けました。認知症疾患医療センターとは、地域における認知症疾患の保健医療水準の向上を図ることを目的に、国が平成20年度から設置をすすめています。大分県内には現在、6か所の認知症疾患医療センターがあります。

認知症疾患医療センターの役割や事業内容について

①専門医療相談（電話・面談は無料です）

・専門の相談員が、認知症に関する様々な相談に対応致します。また地域包括支援センター等と連絡・調整なども行います。

②鑑別診断とそれに基づく初期対応（診察は保険診療となります）

・初期診断・鑑別診断を行い、診断結果に基づき治療方針を選定し治療を行います。

状況によって、他の医療機関や介護施設等のご紹介もいたします。

③身体合併症・周辺症状（幻覚妄想、暴力、徘徊等）への急性期対応

④関係機関との連携

・介護から医療、医療から介護へとスムーズにつないでいけるよう、地域の医療機関や地域包括支援センター等、行政機関との連絡・調整を行います。

⑤研修会の開催

・認知症に関する知識の向上を図るための研修などを実施します。

⑥情報発信

・ホームページやパンフレット等にて認知症医療に関する情報発信を行います。

（所在地）	（医療機関）
大分市	緑ヶ丘保養園
竹田市	加藤病院
豊後高田市	千嶋病院
別府市	向井病院
佐伯市	長門記念病院
日田市	上野公園病院

今後は地域における認知症医療とケア体制の強化を図るため、関係機関とのネットワーク・地域包括支援センター等との連携などに積極的に関わっていきたいと思います。

相談専用電話：0973-23-6603

※1人で悩まず、まずはご相談ください。

役割喪失

今回は、役割の喪失についても少し触れたいと思います。

年をとってくると子供の自立や定年退職など、これまで社会的に担ってきた役割を喪失していきます。また配偶者や友人との死別でも大きな喪失感を感じます。そうした変化によって「自分はもう、社会に必要とされない存在なのか」と悲観したり、自信をなくしたり意欲が低下したりもします。生きがいと役割というのは似ているものだと自分は思います。

認知症を発症して何もさせないで、家や施設・病院で何もせず無為に過ごすことより、日常の簡単な作業などを手伝ってもらうことにより役割を与え、軽作業を日々持続することとても大切な事だと思います。



「多職種による見える事例検討会」やっています！！

外来看護師 渡辺 小百合

通所リハビリ ふきのとう
 居宅介護支援センターうえの
 ホームページアドレス
<http://www.uenokoen-hospital.jp/>
 E-mail
uenokoen-hp@giga.ocn.ne.jp

今回、大分県西部地域（日田、玖珠、九重）で認知症に関わる多職種によるネットワークづくりの一環として認知症ケア専門士を中心に「おおいた西部地域認知症ネットワーク研究会」を6月に設立しました。当研究会は包括的な視点からの援助技術の向上、支援者ネットワークの構築をし、認知症の人と家族が地域で安心して生活ができる環境作りを目指し、次の活動を行います。

- ①研究発表会、学術講演会・学術集会の開催及び参加
- ②地域で行われている認知症の取り組みの紹介、ならびに、サポート
- ③地域医療保険・介護関係者間との連携強化に向けた事例検討会の開催
- ④その他、関連事業

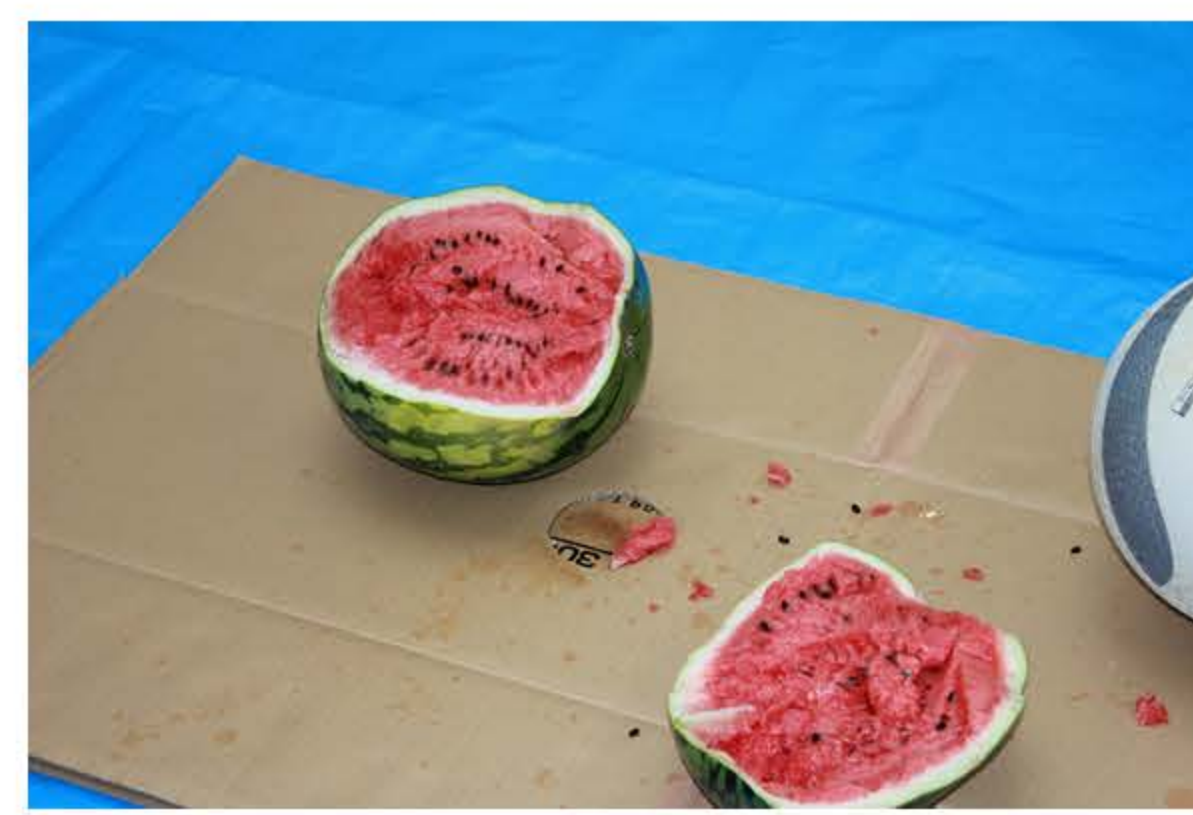
その中で「見え検マップ」を利用した「多職種による見える事例検討会」を6月より月1回、当院で開催しています。この事例検討会では専門職の方がそれぞれの視点をフルに発揮することで事例の根底にある課題と解決の方向性を思い出し今後の支援に活かす事を目的としています。今では参加者も60名を超え、福祉用具関係者、歯科衛生士、オレンジドクターなど日頃中々顔を合わせる事がない方々に参加して頂き大変嬉しく思っています。また在宅介護の現状や地域の受け入れ態勢などを具体的に知る事ができたり、認知症の人の人権問題の意見が出たりと有意義な会になりつつあります。

まだまだこれからの会ですが11月には研究会も計画しています。職種に関係なく認知症に関心のある方の参加をお待ちしています。

（☆次回の事例検討会は9月17日（水）18：30～作業療法室☆）

作業療法だより

今年の8月は昨年の酷暑と比べ、日照時間も3分の1と少なく冷夏となりました。野菜の不作や米作りに影響が



出ており農家の方や家計にも打撃が出ているようです。

さて今回の作業療法だよりは病棟での行事を紹介していきます。1つ目は毎年各階の合同で行なっている盆踊りです。今年はお家族の方の協力もあり甚平や浴衣を持ってきていただきました。普段着ている病衣とは違い、毎年増えていくことを期待しています。2つ目は病棟で行なったすいか割です。今年西2病棟と東2病棟で行ないました。目隠しと周りの声とでフラフラしながらも最後は見事に割れました。用意していたもう一つのすいかを皆で食べました。3つ目は10月11日に開催される文化祭です。昨年20回目を迎え、今年も準備を始めております。当日は昼前より行なっていますが、ご家族の来られていない患者の方は午後だけの参加になります。必ずしも全員が参加できるわけではありませんで体調の良い方は普段とは違う雰囲気できゅっくりと過ごしてみたいかがでしょうか。